

麻生区の成り立ち



麻生区

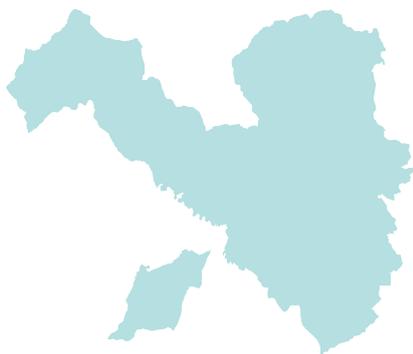
昭和 57 年（1982 年）7 月に多摩区から分区し、誕生した麻生区は、市の北西部、多摩丘陵の一角に位置しています。

麻生という名は、8 世紀頃から朝廷への貢ぎ物だった麻布の原料である麻を広く生産した地であったことによると伝えられています。

現在、新百合ヶ丘駅周辺に官公署・大型商業施設が立ち並ぶようになり、川崎市北部地域の商業・文化の中心地として大きく発展しました。

また、昭和音楽大学や日本映画大学、川崎市アートセンターなどの芸術・文化関連施設が多く、「しんゆり・芸術のまち」づくりを推進しており、kirara@アートしんゆりをはじめ、川崎・しんゆり芸術祭（アルテリッカしんゆり）、あさお芸術のまちコンサート、KAWASAKI しんゆり映画祭などが展開されています。

さらに、黒川・岡上・早野の農業資源、豊かな自然をはじめ、南黒川地区及び栗木地区にある「マイコンシティ」にはエレクトロニクスや先端技術産業に関連した企業が集積し、研究開発の拠点にもなっています。



区の花／区の木

区制 30 周年を記念して、区の花「ヤマユリ」と区の木「禅寺丸柿」を制定しました。



麻生区の花
ヤマユリ

ヤマユリは百合丘の地名の由来になったと伝えられ、かつては、区内のさまざまな地域で自生していました。現在では容易に見ることが困難になってきましたが、麻生区では「麻生ヤマユリ植栽普及会」などの団体が“百合丘”として復活再生することを目的としてヤマユリの植栽活動に取り組んでいます。花の大きさはユリ科の中で最大級です。



麻生区の木
禅寺丸柿

禅寺丸柿は、鎌倉時代前期にあたる建保 2 年（1214 年）に星宿山王禅寺の山中で発見された、日本最古の甘柿とされています。このことから、柿生の地名の元となり、古くから地域の人々の生活を支え、江戸時代の 1648 年頃から明治時代の末には最盛期を迎えました。平成 19 年には貴重な文化財として、国の登録記念物に指定され、平成 24 年 10 月 21 日は、「禅寺丸柿の日」として日本記念日協会に登録しています。形が丸く小ぶりなのが特徴です。

参考：麻生区 HP、麻生区観光協会